大分合同新聞

ワークシート　　年　　組　名前

佐伯市宇目のクリ栽培を再興しようと、県南部振興局などは担い手を育成する「くり学校」を開校します。

産地再興へ「くり学校」

佐伯宇目 12日開校、担い手募集

底堅い国産需要に「将来性」

【佐伯】佐伯市宇目のクリ栽培を再興しようと、県南部振興局などは担い手を育成する「くり学校」を開校する。本年度から始めた「宇目くり産地拡大スタートアップ事業」の一環。11日まで受講生を募集している。

振興局によると、宇目地域はかつて県内有数のクリ産地だった。1989年度の栽培面積は126ヘクタールで、当時の58市町村でトップ。ただ、多くの農園が中山間地にあり、作業性が悪く鳥獣被害も受けやすかったため栽培面積は減少。農家の高齢化も重なり、2016年度は佐伯市全体で73ヘクタールまで減っている。

県は本年度から3年間で産地拡大事業を計画。作業がしやすい平地にある水田をクリ園に転換するなどして栽培面積を増やし、「くり学校」を開いて、生産者を育成することにした。

学校の募集対象は、市内で新たにクリを10アール以上植え付けるか、幼木に植え替える70歳未満の人。定員は20人。ベテラン農家と普及指導員らが、毎月1回、栽培や加工の方法などを指導する。

計10回を予定しており初回は6月12日に同市宇目で開く。受講は無料（テキスト代などは実費）。

クリは植えてから収穫まで2、3年かかるが、受講者は国の対策事業に基づき、収益がない期間の補助などとして、10アール当たり計37万円（植え替えは39万円）を受け取ることができる。申請方法は学校で学べる。

国産のクリは東京電力福島第1原発の事故以降、東北地方での生産量が減少。一方で、外国産に比べて加工がしやすく糖度も高いことから需要は底堅い。16年の市場価格は1キロ当たり745円で、約30年間で倍近くに上がっているという。

振興局は「クリは将来性があり、ペースト状にするなどの1次加工でさらに収益アップを見込める。宇目のクリを盛り上げるため、多くの人に受講してほしい」と呼び掛けている。

申し込み、問い合わせは同振興局生産流通部（☎0972・22・1553）。（乙咲啓太郎）

さいき農林公社が管理している「くり学校」で使用する予定の農園＝1日、佐伯市宇目

2020年6月2日付大分合同新聞 14面

① 「くり学校」を開校する目的は何でしょう？

宇目地域はかつて県内有数のクリ産地だったが鳥獣被害や農家の高齢化で栽培面積が減少したため、本年度から始めた産地拡大事業の一環として生産者を育成し、宇目のクリを盛り上げることにした。

②「くり学校」の募集対象はどんな人ですか？募集の定員は？

市内で新たにクリを10アール以上植え付けるか、幼木に植え替える70歳未満の人が対象。募集定員は20人。

③「くり学校」ではどんなことが学べますか？

ベテラン農家と普及員らから毎月1回、栽培や加工法などの指導を受けることができる。収益がない期間の補助金の申請方法も学べる。

④記事では「クリの需要は底堅く、将来性がある」と書かれています。その理由を書いてください。

国産のクリは東京電力福島第1原発の事故以降、東北地方での生産量が減少。一方で外国産に比べて糖度も高いことから需要は底堅い。市場価格も約30年間で倍近くに上がっており、1次加工でさらに収益アップを見込める。